

## 2018年度同志社大学大学院司法研究科

### 前期日程入学試験問題解説

#### 小論文

##### 出題趣旨

問題文にはカレル・ヴァン・ウォルフレン「人間を幸福にしない日本というシステム」を用いた。日本社会における「調和」は、歴史的に統治者により押し付けられた文化的・政治的なイデオロギーであり、今日の日本社会における、対立を通じた合意形成という民主主義の実現をはばむものであると分析するものである。このように立場の明確な意見に対して、その意図を正しく理解し、反対であれ賛成であれ、理由をあげて自己見解を論じることを要求することによって、理解力と自己見解の構成力をみることを出題の意図とした。

##### 採点基準

以下のポイントごとの点数を上限として採点した

##### 問（1）30点

- ・徳川幕府時代の、紛争の当事者双方がとがめを受けるシステムの指摘 15点
- ・礼儀正しく謝罪の姿勢をとることが有利になること 5点
- ・200字以内で過不足なく、正確な文章が書かれていること 10点

##### 問（2）70点

- ・筆者の見解の正しい理解 10点
- ・反論可能な点 10点
- ・自己見解 10点
- ・例を挙げているか 10点
- ・例の適切さ 10点
- ・全体を通した文章の構成における整合性、論理性 10点
- ・文章の正確さ 10点